

幼児を対象とした読書と体験に関する活動の現状と循環プログラムの開発

上森 香穂

幼稚園・保育所等での読み聞かせは日常的に行われており、幼児期の読み聞かせは、言語能力、想像力、社会性の育成などの効果があることが示唆されている。ただし、読み聞かせなどの読書活動のみでは子どもの社会化や人間形成が十分できないという指摘や、読書から得たものを活かすためには、実際の体験や社会経験を伴わせる必要があるとの示唆もある。これまでに科学館で行われた、読み聞かせと体験を結び付けた実践では、絵本を用いることで広く情報を提示することができる、体験を通して絵本の内容を実感することができるなどの効果があることが示されている。この実践のような読書と体験をともに組み込んだ活動、さらには読書と体験を循環させて実施する活動をより多くの幼児に経験してもらうためには、活動の実施場所を保育施設とし、保育施設で無理なく日常的に実施することができるプログラムを開発する必要がある。

本研究では、体験のもととなる施設の資源や年間行事の実態、クラスでの読み聞かせや体験の実践を知り（目的 1）、保育施設で無理なく日常的に行うことができる、読書と体験を組み入れたプログラムを開発する（目的 2）。本研究は、2つの調査から構成され、調査 1 が目的 1、調査 1 と調査 2 が目的 2 にそれぞれ対応している。

調査 1 では、関東の保育施設の職員（50 施設：161 名）を対象に、保育施設の概要や設備、年間行事、読み聞かせや体験の実践について尋ねる質問紙調査を実施した。設備については、「花壇」「プランター」「園庭」「砂場」「プール」等の設備の所有が多い（プランター所有率 93.8%、園庭所有率 88.0%）という結果が得られた。また、年間行事としては、「節分」「運動会」「クリスマス」「七夕」「ひなまつり」という順に、実施されている施設数が多かった（節分実施率 92.0%、運動会・クリスマス会実施率 76.0%）。より多くの保育施設で実施することができるという点、多様なプログラムを提案できるという点等を考慮し、プログラムのテーマとして「七夕」「クリスマス」「虫かご」「畑・花壇・プランター」「食育・クッキング」「口腔衛生指導」の 6 つを選定した。

調査 2 では、調査 1 の結果をもとに、児童サービスに従事している司書 3 名を対象に、体験の内容に関連する絵本を尋ねる Web 調査を実施した。調査 2 で推薦された絵本をもとに、テーマごとにプログラム案に使用するブックリストを作成した。

調査 1 と調査 2 の結果をもとに、保育施設で無理なく日常的に実施することができる読書と体験を組み入れたプログラムの内容を検討し、プログラム案を 6 つ作成した。プログラム案は、①読み聞かせ→②体験→③読み聞かせの流れで作成し、読み聞かせに使用する絵本を選択してもらうためのブックリストと体験の内容を提示した。今後は、このプログラムを実施し、実践の効果を検討していくことが望まれる。

（指導教員 鈴木佳苗）